

# 三条教区通信

第 42 号

発行日 2010年12月1日

発行者 三条教務所長 藤坂 初裕

発行所 真宗大谷派三条教務所  
〒955-0071 三条市本町 2-1-57

変更⇒ E-mail: [sanjo@higashihonganji.or.jp](mailto:sanjo@higashihonganji.or.jp)

URL: <http://www.gobosama.net>

★本通信は上記 URL からご覧いただけます。

## 今月の法語

[法語カレンダーより]

浄土真宗は  
大乘の中の  
至極なり

【末燈鈔】

## 研修会等ご案内

### ■秋安居

開催案内既送

- ◆期 間 12月7日(火)10時  
～8日(水)15時30分
- ◆会 場 三条教区同朋会館
- ◆講 師 本多弘之氏  
(本年度安居本講講者)
- ◆講 題 根本言としての名号
- ◆テキスト 『2010年度 安居講録』¥2,500-
- ◆持ち物 真宗聖典、寺族の方は間衣・輪袈裟、略念珠、筆記具、その他
- ◆参加費 500円

### ■第30回法灯の集い

開催案内既送

- ◆期 間 2010年12月6日(月)14時受付  
～7日(火)11時解散
- ◆会 場 ほてる大橋館の湯(岩室温泉)  
〒953-0104 新潟県新潟市西蒲区岩室温泉 340 甲  
Tel(0256)82-4125
- ◆講 師 安 富 信 哉 氏(三条教区第22組  
光濟寺・大谷大学特別任用教授)

- ◆講 題 『帰敬式の意義について』
- ◆参加費 12,000円(1日目の宿泊・夕食懇親会費、2日目の朝食を含む)懇親会出席で宿泊なしの場合は、8,400円 講義のみは1,000円

## 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

### 本山御遠忌法要団参について

- ① 2011年1月頃には、確定一覧が教務所に、「確定書」「手引き」「しおり」「運行計画表」が引率責任者に、本山から送付予定です。
- ② 明年3月上旬に指定席券が本山から引率責任者へ送付されます。

### 2011年

第一期法要	3月19日～3月28日
第二期法要	4月19日～4月28日
第三期法要	5月19日～5月28日
御正當報恩講	11月21日～11月28日

### 教務所別院主催御遠忌団参について

明年3月に出発する教務所別院主催の御遠忌団参について、募集期間を延長してさらに募集することになりました。

- 第1班 : 2011年3月20日(日)～ 3月22日(火)
  - 所要経費 : お一人 57,000円(宴会費込)
  - 募集人数 : 40名(満員になり次第、締切らせて戴きます。)
  - バス乗降箇所 : (新潟駅南口・三条教務所・長岡 I.C.・柏崎 IC)
  - 第2班 : 2011年3月21日(月)～ 3月23日(水)
  - 所要経費 : お一人 55,000円(宴会費込)
  - 募集人数 : 40名(満員になり次第、締切らせて戴きます。)
  - バス乗降箇所 : (新潟駅南口・三条教務所・長岡 I.C.・柏崎 IC)
- ※お申し込みは、教務所まで。

## 本山御遠忌関連各種行事について

『真宗』誌9月号以後の号、『御遠忌ガイドブック』のP122にて法要出仕や各種イベント案内が掲載されております。申込は締め切り前にお申し込みください。

### 組 御遠忌お待ち受け法要(大会)について

2010年	
第14組お待ち受け大会	
期 日：2010年12月4日(日)	
講 師：延塚 知道 氏	
第23組お待ち受け大会	
期 日：2010年12月4日(日)	
講 師：安富 信哉 氏	

### 御遠忌讃仰事業の予定

本山の御遠忌讃仰期間中の2011年3月31日に、教区の日として本山で田んぼアート採納式や展示企画等を開催いたします。

### 教区御遠忌お待ち受け法要兼別院報恩講

各種行事に多数ご参集いただき、有り難うございました。12月に打ち上げを兼ねて実行委員会の反省会を持ちます。

## 教化委員会からのお知らせ

### 三条教区教化研修テーマについて

教化委員会企画委員会において、これまでの教区教化研修テーマ「共にといえる 人生を生きよう」について、教化委員会任期満了までの間、継続する運びとなりました。

教区教化委員会を中心に、このテーマについて考察を重ねて、次の教化委員会へ引き継ぐべく、【「共にといえる、人生を生きよう」に憶う】と題して、順番に執筆、毎月『教区通信』に掲載いたします。

第26回目は、研修部会委員の長田暢氏です。

\*\*\*\*\*

### 「共にといえる、人生を生きよう」に憶う

第16組 善興寺 長田 暢

某月某日の夜、某家の家族全員が茶の間に集まっている。南東方向から『ゴォー』という得体の知れぬ物音が迫り来る。誰ともなく「また 来た」と口々に叫ぶ。それより早いや否や、その家の『あるじ』は立ち上がり部屋を出、かつ外へ出ようとする…そんな光景を深夜まで幾度と繰り返す…何を隠そう中越地震の夜、余震

の度の光景、その『あるじ』とはこの私。常に腰の重い、動きの鈍いこの私が、揺れが来る前にすでに立ち上がっている。家族を残したまま。倅のキツイ一言「おとん、いつも遅いの、なんでこんげん時早いん」我も驚く身の軽さ素早さ…自身の本性を垣間見た一瞬。

ともにといえる人生を生きよう。ハッキリ言えばこの私には程遠い言葉、もっと言えば有り得ない。ひとそれぞれ千差万別持ち合わせているものが違う…

あなたは私と一緒に弥彦山に登ってくれますか。大概一時間もあれば登るでしょう。私は四時間かかってどの辺にいるのかな、てな具合な私と登れますか。「一緒なら一時間で登れるよ、どう一緒に行かない。」言われても無理。私はゴメンです。

私の家族は5人。男2人女3人。老人1人中年2人で未成年2人。おいつきが3人入った者2人。出たがり系1人引こもり系4人。それに様々な4人のおたく系。他にも分類すればきりがなく、多種多様。よってこれを略するところなり。

そんな5人が多少の遠慮の中で言いたい放題し放題を交えてひとつ屋根の下、ともに暮らしている。

今年も別院の御取越しが750回御遠忌御待ち受け法要と兼ねて勤まった。法要に助音の一員としてかわらせていただいて30年近く。多種多様な人が各々の役割で自分のすべきことをなし、あとは他の役割に委ねる。そんな中で法要が勤まる。『儀式』ってすごいぞ……ともにと言えない私が、気がつけばいつも支えられていた。

ともにと言えない私のそばには、やっぱりともにと言えない違う誰かがいつもいる。有り難いことです。これで充分ではありませんか。ひとが出来ることがやれなくとも、自分の出来る事やれば…。

ともにといえる人生って、こんなでないですか。

※次回は研修部会委員の金巻拾子氏(第23組無為信寺)よりご執筆いただきます。



### 第三十六回推進員連絡協議会研修会

推進員 米山 久雄

日 時 二〇一〇年十月七日(木)

会 場 東本願寺三条別院 本堂

目 的 推進員一人ひとりが、日頃の聞法の確かめをし、信心の在り様を問う場とする。

講 師 青木 新門 氏(作家・詩人)

講 題 「いのちのバトンタッチ」—映画「おくりびと」に寄せて—

参加者 八十五名



今日の研修会は昨年とは異なり七月十四日開催の総会と研修会が別々に行われた。それにもかかわらず八十五名の方々から参加をいただき、別院の配慮で会場は、本堂で行われ、来年の御遠忌を控え会場は熱気にあふれていました。

青木氏は、親鸞聖人の教えに出逢ったのは宗教に関心があって学んだのでもなく、誰かに教わったからでもなく、葬式の現場で出逢った不思議な体験から、と話は始まり「納棺夫」になったいきさつ、そして親族からの異常な反対、その中で、物事を真摯に行うのと嫌々行うのでは雲泥の差が生じ社会的評価が違ってくる。そして叔父の死が如来のことばとなって、親族との反抗的な態度が消滅しました。

そんな如来のことばに導かれるように親鸞聖人のみ教えに出逢い始めた頃「納棺夫日記」を書きました。

「納棺夫日記」の映画「おくりびと」についても主演者の本木雅弘との出会い、撮影、そして、試写会までのやりとりや、エピソードへと話が展開していきました。

その時進行役が予定時間が三十分過ぎているという事で、午前の部は中断して、本堂で全員昼食を美味しくいただきました。

午後からは、合唱練習ということで藤井先生の指導のもと「真宗宗歌」「みほとけ」「恩徳讃」の三曲を練習しました。先生の身振り、手振りや先に一小節を歌い、その後から全員が続いて歌うという熱心な指導で、報恩講の音楽法要に参加出来る？くらいに上達しました。

その後予定していた座談会は取りやめ、青木質疑応答に移り、数名の方々からの質問があり、その回答は「正信偈」や「和讃」の句から引用してお話をされました。

心残りはありましたが、予定の時間が過ぎた為に終了し閉会しました。有意義な一日で「あっ」という間に終了しました。合掌

## 「差別と真宗」 基礎講座実施報告

「差別と真宗」共学研修会部門スタッフ

佐渡組浄願寺 住職 藤岡正典

去る10月19日、上記基礎講座が佐渡組専念寺様において開催され「なぜ、部落差別問題が真宗門徒の課題となるのか」の講題のもと村山教二先生をお招きしてご講義をいただきました。

基礎講座ではありましたが、「信心」に焦点を当てて頂きたいと前もってお願いしてありましたので、普通の差別意識についてお話したいと仰って先生は語り始められ、子供連れを見つかけられると、「仏法の話は全身の毛穴から入ってくる、子供が走っていても構わない。」と微笑んで仰る。先生の人柄と相俟って、子供の頃に聞かせていただいたご門徒のおじいさんおばあさんの声が鮮明に響いてきて、ハッとしたことでした。

報告はこれだけで良いのかも知れませんが、何よりも開法が大切と教えて下さる先生だから。この何気ないお声かけに先生の真骨頂が凝集しているようにいただくのでした。

先生は、「差別意識、差別心は誰もが持っている。しかし、その差別心を自分が持っていることを自覚する」ということが大切と、ご自分の常に弱い生徒に目を向けた教師としての体験を通して、「なくすことはできないが自覚することができる」と強調され、差別撤廃の歴史的成果、参政権、女性住職の例を挙げて、私たちの自覚する意識によって差別撤廃の日常性が方向づけられることをご教示下さるのでした。

先生は、カースト制を引きずる現代インドを挙げながらそのカースト制を打破しようとする仏法の意義を指摘され、仏法の眼目は平等、平等力にあると、「唯説弥陀本願海」、釈尊がこの世に出られたのは、ただ、弥陀本願海を説くためであった、平等力を説くためであった、とご教示くださり、現代インドに限らず、「五濁増のしるしには この世の道俗ことごとく外儀は仏教のすがたにて 内心外道を帰敬せり」と親鸞聖人のご和讃をいただき、「外道を帰敬して」その誤りに気付かぬ私たちの現実を、宗祖聖人の教えの中で現実を深く見詰めることの重要性を指摘され、そして、それに気付かれた私たちの先輩方の歩み、願生浄土の歩みがあり、同朋教団が建立され、今日の同朋会運動へと展開していると教えて下さるのでした。温かい豊かな人間関係を実践する、そういう同朋会運動の意義を凝視されるのでした。

更に深めて、四つのイドラを説明され、私たちは「我一人をよしとするエゴを持っている」「我慢を持っている」私が慢心に陥る、と説かれ、「念仏のみぞまことにておわします」と歎異抄のお言葉をお示し下さり、「お正信偈」こそエッセンスとご指摘になり、



「極重悪人唯称仏」「一味の安心」をお解き下さり、本願力の中にこそ救われる世界がある。差別なく同一の安心をいただくことができる。つまり、聖人のお言葉「凡聖逆謗ひとしく回入すれば 衆水の海に入りて 一味なるが如し」の世界であると解かれ、先生は「私の差別が見えてくるのが大切」と語って下さるのでした。

更に先生は、ご和讃「無碍光如来の名号と かの光明智相とは 無明長夜の闇を破し 衆生の志願を満てたもう」をお示し下さり、とれは破闇の徳であり、私にこういう闇があったのだと驚き、私たちは「業縁存在」なのだとの機を深信をいただく身であることを明確化して下さった。「家を一步出たところから聞法が始まっている」と。そして、お念仏に御同朋、御同行、「共に是凡夫」の世界が開けてくる。同悲の同朋が成立してくる。としみじみ仰るのでした。

そして、十八願文を押さえられ、「十方衆生よ」と呼びかけられている。また、本願成就文により、「誰も来い」「一緒に来い」と呼びかけられ、誰もが浄土に必ず往生する、と根拠によりお解き下さるのです。私たちは諸仏となられた方々にご遠忌においてお祝いする。「人は死ぬばゴミになる」と云う人がいるが、ゴミになんかになっていない証拠、いのちを共有する「一緒の世界」がある。この「第二の生がずーと長い」と仰る先生の言葉は誠に印象深いものでした。

更に、「一子地は仏性なり、仏性即ち如来なり、如来即ち平等覚なり」と宗祖聖人のお言葉をいただきながら、苦悩から解脱する喜び、「法の深信」をいただく喜びのころ、すなわち、「満願の徳」を語って結びとされるのでした。

差別心を自覚することの大切さ、そして、その自覚は法の深信、機の深信のこの二種深信の如来回向の信心に依る他ないと、先生は、門信徒、寺族、スタッフ総勢30名の出席者に対して、懇切丁寧に講話下さったように思います。

断片的なメモを辿りながらの雑な報告となってしまう申し訳なく存じますが、先生のご講話終了後に出していただきました2, 3の意義深いご質問に対して、教務所長も加わり、分かり易くお答えいただいたことを申し添え報告と致します。

### 「差別と真宗」共学研修会

「女人五障と変成男子を読み解く」同朋  
大学特任教授菱木政晴氏を受講して

20組 金宝寺坊守 朝倉安都子

とても楽しく、力づけられる講義だった。お釈迦様の説法の最中に、文殊と智積が私語をしているという、身近に感じられる場面の紹介から始まった。聖典の世界が私たちの上に重なってきて、聖典と現実を行き来

しながら「五障」についての混迷をほぐしてもらうような心地よさだった。当日11月12日の参加者は43名。例年に無くたくさんの方が集まる中、講義が進んだ。

「五障」は「女性が持っている五つの障壁」と広辞苑にあるが、「女性がこうむっている五つの困難の指摘(差別・不公平が現にあることの確認)」だと、講師はおっしゃった。五つの困難とは、帝釈・梵天・魔王・転輪聖王・仏の五種類の地位・職業に着くことの困難。それは「女は芸術家になりにくい」「女の政治家はほとんどいない」「女の哲学者はいない」ということで、今日においても通用する。この困難・不公平を、法華経では「女は男に変身する」と解決している。天親、曇鸞、善導、親鸞、蓮如も、女性がこうむっている「五障」をどうにかしなければ、と求めてきた。そして「浄土に女性はいない」「変成男子」「ただ念仏」などしか思いついていない。しかしこれらは解決策にはならない。性差別(「五障」)は、「女性の再生産労働の搾取(家事・育児を担わされていること)を中核とする女性に不利な社会の仕組みによって起きる出来事であるから。

「留守番やお茶出しのために来てもらうんじゃないから」と言ってもらって、私はお寺に入った。けれど、私に回ってくるのは留守番やお茶出しで、本山や教区や組に参加・参画する誘いはなかった。法話や御文で「五障三従」「女は罪深い」「嫁・姑は女の業」など聞き「本当にそうなんだろうか」と悲しくなり、暗黒の世界に閉じ込められていくような恐怖を感じた。その私の苦しみや疑問に、夫は答えを持っていなかった。

女性に不利な仕組みに、教団はますます取り組んでほしい。教師修練の重要な課題としてほしい。教区で「若坊守研修会」を持って、どう生きていいか迷いの中にある若坊守を勇気づけてほしい。20組は、坊守会によって若坊守会がつくられ、同じ境遇の人とお喋りし、学んでこれて、私は今、「今、元気になる教え」という仏教が大好きな坊守です。



## 教務所からのお知らせ

### ◎ラジオ放送「東本願寺の時間」について

宗門が1951年11月よりラジオ伝道として取り組んできている「東本願寺の時間」について、吉運堂様のご提供により、新潟県でもお聞きになれます。

また、現在は、宗祖の御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を番組テーマとして様々な方より法話をいたしておりますが、現在、宗派のホームページである「しんらんしょうにんホームページ」

(<http://higashihonganji.jp/index.html>)にて、これまで放送された番組をお聴きいただくことができます。

是非、ご聴取ください。

### ラジオ放送「東本願寺の時間」

○テーマ 「今、いのちがあなたを生きている」

○講師 (事情により変わる事があります)

★11/21～1/8 酒井義一 氏(東京教区)

※1/1～1/7は宗務総長のお話の予定です。

★1/9～2/19 佐藤義成 氏(長浜教区)

○放送局 新潟放送(BSN)

＊新潟県全県をカバー

・小出エリア 1026KHz

・中越エリア 1062KHz

・下越エリア 1116KHz

・塩沢エリア 1485KHz

・上越エリア 1530KHz

○時間 毎週金曜日 5:00～5:10

○提供 吉運堂 様

### ◎御遠忌記念テレビ番組

●御遠忌記念テレビ番組『宮崎哲弥 ころのすがた』今後の放送日程は以下のとおりです。

【第3回放送】

放送日時:12月19日(日)午後3時から

ゲスト:青木新門さん(作家)

●また、ミニ番組『親鸞の道』も毎週土曜日(MBS)・水曜日(BS-TBS)に絶賛放送中ですので、是非ご覧ください。今後の放送内容は以下の通りです。

【第7回】11/13(土)・17(水)⇒居多ヶ浜、見真堂、親不知

【第8回】11/20(土)・24(水)⇒五智国分寺、鏡ヶ池、養翁清水

【第9回】11/27(土)・12/1(水)⇒光源寺

### ◎同朋の会結成届けについて

寺院・教会や地域などで同朋の会が結成されましたら、結成届を教務所にご提出ください。届出の提出されました同朋の会には、「同朋の会提灯」や「同朋の会奉仕上山旗」が無償で贈呈されます。

(贈与は1回。提灯や上山旗には申請されました会の名称が入ります)また、「同朋会員結婚記念念珠」が無償で贈られます。詳しくは教務所(森・北島まで)

### ◎いのち・愛・人権新潟展におでかけください

部落差別をはじめ、一切の差別を撤廃し、平和と民主主義、人権の確立という願いを、すべての新潟県民のなかに確かなものとしていくことをめざし、「いのち・愛・人権展」を1989年に新発田市で開催して、今年で22回目を迎えます。

今年はいのち・愛・人権新潟展として次の内容で開催されます。

是非、ご参加ください。

◆期間 2011年1月26日(水)～2月1日(火)

◆会場 りゅーとぴあ(新潟市民芸術文化会館)

◆記念講演会

・日時 1月26日(水)15:00～16:50

・場所 りゅーとぴあ

・講師 荒木康雄 氏

(全国人権教育研究協議会事務局長)

・講題 部落問題と人権教育の課題

・参加費 無料

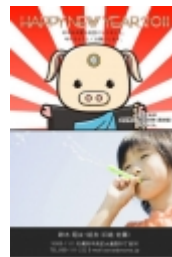
・問合せ 新潟市 市民総務課市民相談係

(☎025-226-1025)

### ◎当派キャラクターの年賀状あります。

<http://nenga-kazoku.com/>

本山で設定しました。クリックすると7種類のデザインが表示されます。



「nn\_yur0069」



「nn\_yur0082」

◎英語版宗派ホームページの開設

アドレス <http://higashihonganji.or.jp/english/>

◎教務所事務休止について

下記のとおり教務所事務を休止とさせていただきます。期間中まことに御迷惑をおかけいたしますが、何卒よろしくお祈りいたします。

①期間2010年12月29日～2011年1月6日

②緊急連絡先

- ・三条別院 0256-33-0007
- ・藤坂所長 0766-76-2911(光臨寺)
- ・加田岡主計 0749-85-4527(圓長寺)
- ・竹内主事 02559-2-2326(光円寺)

◎教区他 主な行事予定一覧(11月23日現在)



日程は変更となる場合があります。諸行事の重複等を避けるうえで参考になるよう、なるべく把握している行事は掲載しております。

日	時	行事内容
<b>2010年</b>		
<b>12月</b>		
12/3		～5日 15組推進員養成講座後期上山
12/4	14:00	真宗学院 14組お待ち受け法要 23組お待ち受け法要
12/6	14:00 16:00	～7日法灯の集い 正副組長会
12/7	10:00	～8日秋安居
12/8	16:00	参事会
12/9	13:00 15:00	三条教区教化センター 16組坊守学習会 連区坊守会長会 靖国会議
12/10	14:00	～12日教区会議員立候補届出日 御遠忌委員会教化伝道部会
12/11	14:00	真宗学院
12/13	13:00 15:00	仏青通信会議 児連
12/14	14:00	御遠忌委員会同朋会運動推進部会長岡育成員研修会
12/15	14:00	同朋会教導代表者会議
12/16	14:00	三条教区教化センター 教区お待ち受け法要兼別院報恩講 実行委員会
12/18	14:00	真宗学院 ～19日 18組お煤払い奉仕団
12/21	14:00	真宗学院指導会議
12/23		選出教区会議員・教区監事(参事会

		選出)任期満了
12/24		選出教区会議員選挙日
12/29		～1/6 事務休暇
12/31	11:45	三条別院除夜の鐘
<b>1月以降の予定</b>		
<b>2011年</b>		
1/1	00:00	三条別院修正会
1/12		臨時教区会予定
1/21		～22日保育 園長・設置者研修会
2/26		～27日真宗学院一泊研修 保育講習会
3/1		～2日教学研究会(三木彰圓氏)
3/5		～6日 15組推進員養成講座(別院)
3/11		～12 御遠忌オープニングの所長会
3/19		～3/28 本山御遠忌第一期法要
3/29		～4/18 本山御遠忌御遠忌讃仰
3/31		御遠忌讃仰三条教区の日(於本山) 御依頼適正審議会委員・「差別と真宗」協議会員任期満了
4/1		～3 日本山春の法要
4/4		声明基本講習会
4/8	午後	15組別院清掃奉仕
4/19		～4/28 本山御遠忌第二期法要
4/29		～5/18 本山御遠忌御遠忌讃仰
5/19		～5/28 本山御遠忌第三期法要
6/4		保育大会・新任研修会 20組公開講座
6/13		15・16組育成員研修
6/30		教区教化委員・教区坊守会役員・教区御遠忌委員(所長選定)任期満了
9/30		査察委員任期満了
11/5		～8日三条別院報恩講
11/21		～28 日本山御正當報恩講
<b>2012年 同朋会運動50周年</b>		
3/31		教区門徒会員・教区監事(常任委員会選出)任期満了
4/30		参議会議員任期満了

**駐在教導のつばやき**  
～森之篇～

◇先般、三条教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け法要兼三条別院報恩講が、三条教区を挙げて、2年半前の教区御遠忌お待ち受け大会にも増しての取り組みとして、多くの方々の献身的な御尽力の結集によって見事に厳修されました。(いよいよ来年は宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要です)

◇11月8日、結願日中が勤め終わる頃には、私の中には、「有り難うございました。ご苦労様でした。お疲れ様でした。」と、何かあらゆるもの(こと)に対してそう言わずにはおれない思いがいっぱいになっていました。



面白いことにそういう思いは私だけではなく、むしろ私以上に感じた方々が大勢いたようで、またそんな感情は勢いというモノを呼び込むようで、「今度はあれをしたい。この次はこうしたい。」と更なる取り組みを望む声をアチラコチラで耳にするようになってきています。

◇茂木健一郎という脳科学者が、以前何かの番組で「人間(人間の脳)というのは、感動したら、その感動を誰かに伝えたいという衝動が抑えられなくなる。」と、感動したら伝えるという行動となって表現され、それが感動の連鎖となっていく。(表現の方法によっては、最初はうまく伝わらなくても、得た感動が持続さえしていれば、相手に伝えたいという努力があり、方法が考えられる) 教えが伝えられていくことの一面を見たような気がしました。これがまた運動という面も併せ持つのかなとも考えさせられました。

◇いよいよ、明年春より宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が本山にて厳修されますが、そこでの感動が更に加わり益々、感動が大きくなり多くの方々と共有され、それが行動となり具体的な表現への展開と…(当然、本山御遠忌後の教区の歩みに関心のあるところ)



## 所員のささやき ~小山之篇~

旗振るな  
旗振らすな  
旗伏せよ  
旗たため  
社旗も 校旗も  
国々の旗も  
国策なる旗も  
運動という名の旗も  
ひとみなひとり  
ひとりには  
ひとつの命  
走る雲  
冴える月  
こぼれる星  
奏でる虫  
みなひとり  
ひとつの輝き

花の白さ  
杉の青さ  
肝の黒さ  
愛の軽さ  
みなひとり  
ひとつの光  
狂い  
狂え  
狂わん  
狂わず  
みなひとり  
ひとつの世界  
さまざまに  
果てなき世界  
山ねぼけ  
湖しらけ  
森かげり  
人は老いゆ  
生きるには  
旗要らず  
旗振るな  
旗振らすな  
旗伏せよ  
旗たため  
限りある命のために

城山三郎著『旗』

1941年12月8日未明真珠湾奇襲攻撃で太平洋戦争突入。12月になると思い出したいこと。この月に原稿が回ってきたら、是非書きたいと思っていた。

『うとうとしていたら、いつの間にあそびから帰ってきたのか、カヤノが冷たいほほを私のほほにくっつけて、しばらくしてから、「ああ、・・・お父さんのにおい・・・、」と言った。この子を残して・・・この世をやがて去らなければならぬのか！母のにおいを忘れたゆえ、せめて父のにおいなりとも、と恋しがり、私の眠りを見定めてこっそり近寄るおさな心のいじらしさ。戦の火に母を奪われ、父の命はようやく取り止めたものの、それさえ間もなく失わねばならぬ運命この子は知っているのであろうか？枯木すら倒れるまでは、その幹のうつろに小鳥をやどらせ、雨風をしのがせるという。重くなりゆく病の床に全く廃人となり果てて寝たきりの私であっても、まだ息だけでも通っておれば、この幼子にとっては、依るべき大木のかげと頼まれているのであろう。けれども、私の身体がとうとうこの世から消えた日、この子は墓から帰って、この部屋のどこに座り、誰に向かって、何を訴えるであろうか？私の布団を押し入れから引きずり出し、まだ残っている父のにおいの中に顔をうずめ、まだ生え替わらぬ奥歯をかみしめ、泣きじゃくりながら、

いつしか父と母と共に遊ぶ夢の我が家に帰りゆくであろうか？私のおらなくなった日を思え、なかなか死にきれないという気にもなる。せめて、この子がモンペつりのボタンをひとりではめることのできるようになるまで・・・なりとも・・・』

永井隆著『この子を残して』

先人が凌いできた過去に学ぶ。引用した作品に出会ったときは、守ってもらえる存在だったが。今、守るべき人を持った自分として、平和について考える。変わり行くライフスタイルの中でその年毎に自分に照らし合わせ、身近なものとして平和を考える。個々人に、守ろうという意識がなければ、はかなく崩れるものとして平和のことを考える。一年に一度は、過去に学び平和について考えたい。

## 新潟親鸞学会からのお知らせ

### 宗祖の御遠忌を前に

#### 南無の大地—新潟県—に念仏の声響け

このたびのご遠忌は真宗の葬儀式なのか、教団再生の誕生の法要か。

各本山の屋根の修復は臨終に臨んでの死化粧なのか。それとも念仏の声高らかに、新たなる出発の光り輝く浄土莊嚴の世界になるのか。法要を目前にして大きな歴史の節目に立たされている。

念仏再興、教団再生は可能か。その将来への展望は。その可能性への道筋をどう画くか。それとも我々は、ゆるやかに教団の死を待つ運命に身を委ねようとしているのか。

教団人の危機意識、病識欠如の深刻性は、それぞれの私心の淵に澱んで、公に語られない状況に墮している。教団あげて現状の点検・認識・構想・変革・誕生・再生への意欲、すなわち生まれ出でる陣痛の苦しみが聞こえてこない。教団の最大事、第一義の問題の焦点がボケてしまっていることの危機である。

教団体制ひとつとってみても、江戸から明治、戦後から今日まで、教学から宗政まで中央集権化の極みで、すでに制度疲労を起こしているといえまいか。教団の成り立ちが本来地方主権的であり、教権の確立と共に中央集権化が進んだのが真宗の教団史であるが、明治の近代国家の成立とともに、国家に習って本山の管理支配体制を強力に推し進め、そのまま今日に及んできた。

それは地方の従属化であり、中央から人事、宗政・財務の徹底まで、地方の主体性、意志決定、活動など地方主権の自治的意欲は殺がれ活力を失ってしまった。このような発想はとかく本山、宗門の問題のよ

うに転化されがちであるが、実はわれ一人の独立、わが寺の誕生如何の課題である。

独立者と独立者の上に形成されるのが真の教団である。われの立つ足下の大地こそが、如来の本願が名乗りでようと唯一、選ばれた場所である。

(新潟親鸞学会発行「親鸞NOW」No.15 巻頭言より)

### 親鸞となむの大地

#### —越後と佐渡の精神的風土—展

2014(平成26年)4月26日(土)

～6月8日(日)開催予定

新潟親鸞学会では、宗祖親鸞聖人750回ご遠忌記念行事として、関係各教団の協力を得て、上記期日に新潟県立歴史博物館を会場として企画展を開催の予定です。

#### 【入会申し込み・お問い合わせ】

新潟親鸞学会事務局／超願寺内(〒951-8061 新潟市中央区西堀通二番町 ☎025-222-2820  
新潟親鸞学会デスク：

<http://niigata-shinran.cocolog-nifty.com/blog/>

